

「悪霊に対する権威」

§ 040 マタ 4 : 13～16

§ 042 マコ 1 : 21～28、ルカ 4 : 31～37

1. はじめに

(1) ナザレでの伝道

- ①イエスのメシア宣言
- ②ナザレの人々の不信仰
- ③そこでイエスは、カペナウムに下る。

(2) A. T. ロバートソンの調和表

新しい拠点カペナウム (§ 40)

安息日での悪霊の追い出し (§ 42)

- ① § 41 は、弟子たちの召しであるが、これは後に取り扱う。
- ②ルカの福音書の順序に従う。

(3) イエスの動きの概観

- ①公生涯に入って以降、ナザレが拠点になったことはない。
- ②カナの婚礼の奇跡の後、イエスは短期間カペナウムに住まわれた。
- ③この箇所から、イエスはカペナウムを拠点として活動される。
- ④この状態が、十字架につく半年前に、ユダヤに向かって出発するまで続く。
- ⑤その間イエスは、エルサレムに上ったり、ガリラヤを巡回されたりした。

2. アウトライン

(1) カペナウムに移り住むイエス (マタ 4 : 13～16)

- ①理由その1
- ②理由その2

(2) 会堂で教えるイエス (マコ 1 : 21～28、ルカ 4 : 31～37)

- ①イエスの教え
- ②反応する悪霊
- ③悪霊の追い出し
- ④人々の驚き

3. メッセージのゴール

- (1) 悪霊と私たちの関係
- (2) イエスのメッセージの特徴

このメッセージは、イエスのメシアとしての権威について学ぼうとするものである。

## I. カペナウムに移り住むイエス (マタ 4 : 13~16)

### 1. 理由その1—宣教のための戦略

「そしてナザレを去って、カペナウムに来て住まわれた。ゼブルンとナフタリとの境にある、湖のほとりの町である」(13節)

#### (1) ナザレでの拒否

- ①ナザレは、ゼブルンの地にあった。
- ②ヨシュアの時代に、ゼブルン族とナフタリ族がガリラヤを征服した。
- ③ナザレを去ったのは、家族や共同体との別離を意味する。

#### (2) カペナウムに下った。

- ①カペナウムは、ナフタリの地にあった。  
\*ナホムの村、あるいは、慰めの村
- ②イエスは、ゼブルンの地で育ち、ナフタリの地で奉仕をされた。

#### (3) カペナウムは、拠点にふさわしい地である。

- ①本来は漁業の町である。
- ②交通の要衝の地であるため、異邦人たちの往来があった。
- ③ギリシア・ローマ風の町々に囲まれていた。
- ④人々は、新しい教えに対してよりオープンであった。

### 2. 理由その2—預言の成就

「これは、預言者イザヤを通して言われた事が、成就するためであった。すなわち、『ゼブルンの地とナフタリの地、湖に向かう道、ヨルダンの向こう岸、異邦人のガリラヤ。暗やみの中にすわっていた民は偉大な光を見、死の地と死の陰にすわっていた人々に、光が上った』」(14~16節)

#### (1) イザ 9 : 1~2 の預言

- ①イエスの奉仕は、ガリラヤから始まり、エルサレムで完了する。
- ②イエスの奉仕の対象は、「死の地と死の陰にすわっていた人々」である。  
\*物理的状态  
\*霊的状态

③イエスの奉仕の対象は、ユダヤ人と異邦人が混在したグループである。

\*イエスは第一義的には、ユダヤ人のために奉仕をされた。

\*しかし、異邦人の救いが常に念頭にあった。

④イエスは光である。

「すべての人を照らすそのまことの光が世に来ようとしていた」(ヨハ1:9)

「わたしは光として世にきました。わたしを信じる者が、だれもやみの中にとどまることのないためです」(ヨハ12:46)

## II. 会堂で教えるイエス (マコ1:21~28)

### 1. イエスの教え (21~22節)

「それから、一行はカペナウムに入った。そしてすぐに、イエスは安息日に会堂に入って教えられた。人々は、その教えに驚いた。それはイエスが、律法学者たちのようではなく、権威ある者のように教えられたからである」

(1) ある安息日選ばれているが、これは典型的な例である。

①イエス時代のこの町の人口は千人前後と推定される。

②会堂の遺跡が、1900年代初頭に発掘された。

③玄武岩の上に、紀元4世紀の白色石灰石の会堂が建てられている。

④会堂の規模は、長さが20メートルで2階建てである。

(2) イエスが安息日に会堂に行くのは、習慣になっていた。

①トーラーと預言書の朗読の後で、奨励のメッセージが語られた。

②イエスは、会堂の管理者の要請で、人々に教えた。

(3) 人々は、非常に驚いた。

「人々その教に驚きあへり」(文語訳)

①律法学者の教え

\*過去のラビたちの教えを引用し、その上に自分の教えを付け加えた。

②イエスの教え

\*誰の権威に依存することもなしに、権威をもって教えた。

### 2. 反応する悪霊 (23~24節)

「すると、すぐにまた、その会堂に汚れた霊につかれた人がいて、叫んで言った。『ナザレの人イエス。いったい私たちに何をしようというのです。あなたは私たちを滅ぼしに来たのでしょうか。私はあなたがどなたか知っています。神の聖者です』」

- (1) 悪霊は、人々よりも先に、イエスが誰であることを認識した。
  - ①叫んでいるのは、その人の内側に住みついている悪霊である。
  
- (2) 「ナザレの人イエス。いったい私たちに何をしようというのです」
  - ①悪霊を追い出す際には、その悪霊の名を呼んで、支配権を確立した。
  - ②悪霊は、「ナザレの人イエス」と呼んで、支配権を確立しようとしたのか？
  - ③「あなたはわたしたちとなんの係わりがあるのです」(口語訳)
    - \*ヘブル的用語である。対立する力があり、調和できない状態を指す。
  
- (3) 「あなたは私たちに滅ぼしに来たのでしょうか」
  - ①単数の悪霊が、「私たち」と言っている。
  - ②イエスの存在が、悪霊集団にとっていかに危険なものであるかを知っていた。
  - ③荒野の誘惑に失敗した悪魔が、悪霊集団に情報を伝達したのであろう。
    - \*悪のネットワークの存在
  
- (4) 「私はあなたがどなたか知っています。神の聖者です」
  - ①「ナザレのイエス、かまわないでくれ。我々を滅ぼしに来たのか。正体は分かっている。神の聖者だ」(新共同訳)
  - ②「やい、ナザレのイエス！ おれたちをどうしようというんだい。おれたちを滅ぼすために来たんだろうが。あんたのことはよく知ってるぜ。そうとも、神のきよい御子様よ！」(リビングバイブル)
  - ③「神の聖者」(Holy One of God) とはどういう意味か。
    - \*「聖者 (Holy One)」とは、神である。
    - \*「神の聖者」(Holy One of God) とは、神の第一の使者という意味。
    - \*聖霊によって力を受けている。特別な使命のために遣わされている。
    - \*悪霊は、イエスの権威の源を見抜いている。

### 3. 悪霊の追い出し (25～26 節)

「イエスは彼をしかって、『黙れ。この人から出て行け』と言われた。すると、その汚れた霊はその人をひきつけさせ、大声をあげて、その人から出て行った」

- (1) 「イエスはこれをしかって、『黙れ、この人から出て行け』と言われた」(口語訳)
  - ①イエスが叱っているのは、悪霊である。
  - ②イエスは、悪霊の証しを必要としない。
  - ③悪霊の証言は、認められない。

(2) 悪霊が去る時の現象

①悪霊は、その人をひきつけさせた。

②ルカ4:35

「するとその悪霊は人々の真ん中で、その人を投げ倒して出て行ったが、その人は別に何の害も受けなかった」

③大声をあげた(悪霊がその人に声を上げさせている)。

4. 人々の驚き(27~28節)

「人々はみな驚いて、互いに論じ合って言った。『これはどうだ。権威のある、新しい教えではないか。汚れた霊をさえ戒められる。すると従うのだ』。こうして、イエスの評判は、すぐに、ガリラヤ全地の至る所に広まった」

(1) 驚きの理由

①イエスが通常悪霊の追い出しとは異なった方法で、悪霊を追い出したから。

②命じるだけで、悪霊は従う。

(2) 人々は、イエスの教えが権威あるものだと認めた。

①権威ある教えと悪霊の追い出しは、イエスのメシア性を証明するものとなった。

②イエスの評判が、短時間の内にガリラヤ全地に広がるのも当然のことである。

結論：

1. 悪霊と私たちの関係

(1) 悪霊につかれているとは：

「ある人の中に悪霊が住み、ある種の精神的錯乱や肉体的不調を用いて、その人を直接的に支配している状態のことである」

(2) 区別の必要性

①悪霊につかれているのか、精神的原因によるものなのか。

②悪霊につかれているのか、悪霊の攻撃なのか(外からのもの)。

(3) 信者は悪霊に支配されるか。

①悪霊の所有物にはならない(完全に支配されることはない)。

「あなたがたは、代価を払って買いとられたのだ。それだから、自分のからだをもって、神の栄光をあらわしなさい」(1コリ6:20)

②しかし、悪霊が内側から信者を支配することはある。

「そこで、ペテロがこう言った。『アナニヤ。どうしてあなたはサタンに心を奪

われ、聖霊を欺いて、地所の代金の一部を自分のために残しておいたのか』(使5:3)

「悪魔に機会を与えないようにしなさい」(エペ4:27)

\*機会とは、場所、上陸地点のことである。

③信者と未信者の違いは、支配の度合いの違いである。

\*信者には2つの性質がある。

\*聖霊は、新しい性質の内に宿る。

\*悪霊は、罪の性質の内に宿る。

(4) 福音書は、現代の悪霊の活動を判断するための規準とはなり得ない。

## 2. イエスのメッセージの特徴

あ：愛—イエスは、愛をもって語った。

①律法学者たちは、往々にして、個人的な利得を求めている。

「また、やもめの家を食いつぶし、見えを飾るために長い祈りをします。こういう人たちは人一倍きびしい罰を受けるのです」(マコ12:40)

②イエスは、聴衆の最善を求めた。

\*父なる神を指し示した。

い：いのち—イエスは、人生の重要テーマについて語った。

①律法学者たちは、どうしてもよいことを話題にした。

「わざわざだ。偽善の律法学者、パリサイ人。おまえたちは、はっか、いのんど、クミンなどの十分の一を納めているが、律法の中ではるかに重要なもの、正義とあわれみと誠実を、おろそかにしているのです。これこそしなければならぬことです。ただし、十分の一もおろそかにしてはいけません」(マタ23:23)

②イエスは、生死に関わることを語った。

う：動き—イエスは、着地点に向かって語った。

①律法学者たちは、荒野をさ迷うようなメッセージを語った。

「ユダヤ人の空想話や、真理から離れた人々の戒めには心を寄せないようにさせなさい」(テト1:14)

②イエスは、父なる神に向かわせるメッセージを語った。

え：絵—イエスは、たとえを用いて語った。

①律法学者たちは、感動のない教えを語った。

②イエスは、人々の関心を呼ぶ方法を知っておられた。

お：お墨付き（authority）—イエスは、権威を持って語った。

①律法学者の権威は、前の時代のラビたちに依存している。

②イエスの権威は、父なる神から与えられたものである。

\*悪霊に対する権威

\*病に対する権威